

令和6年度第2回我孫子市総合教育会議 概 要

■件 名／令和6年度 第2回我孫子市総合教育会議

■日 時／令和6年12月24日（火）16：00～17：15

■場 所／教育委員会大会議室

■出席者／星野市長、丸教育長、蒲田教育委員、村松教育委員、新山教育委員、中村教育委員、高見澤企画総務部長、山田教育総務部長、菊地生涯学習部長、（教委総務課）高橋課長、尾高課長補佐、（指導課）森谷課長、（教育相談センター）遠藤所長、（秘書広報課）安武課長、小原係長

■傍聴者／1名

■議題

1. 我孫子市の不登校・いじめの実情と対策について

教委総務課、教育相談センター及び指導課より説明を行い、意見交換を行った。

（意見交換）

- 先生方が柔軟にそれぞれの子供にあった対応・対策をしていくことが大切だと思う。
- 子供が気軽に声をかけられる環境づくりが必要だと思う。
- 子供を信じて、親は子供を「見守る」姿勢を大切にしてほしい。
- 校内教育支援センターの出席率が伸びていることに驚いた。学校に行ける子が増えていることからよい取組だと感じた。学校に来ることがすべてではないが、様々な学びの場があることはよいことだと思う。今後も取り組んでほしい。
- 成長するにつれ、人とのかかわりや交流範囲が広がる。人との付き合い方について、学校での生活の中で育んでほしい。
- 「不登校」と「いじめ」双方に共通する問題は、SOSの出し方だと思う。「だれに、どこに、どのように発信するのか」今の子供たちの悩みを学校が拾ってあげることが大事だと思う。
- SOSの出し方教育とは、どのようなことをしているか。
- 「頼れる人がいない」と思っている子がいるか。アンケートに「頼れる人がいるか」という質問を入れてほしい。

- 「頼れる人がいない」と答える子がゼロに近くなるように取り組んでいきたい。
- SOSを安心して出せる相手がいないと、出したくても出せないと思う。
- 教育相談センターの取り組みや役割は大きいと思う。
- 子供たちには、自信を持って生活して行ってほしい。学校現場では、子供たちに自信を持たせてあげるよう接してほしい。
- 今の子供たちは昔よりも情報が多く、悩みも複雑になっていると思う。
- ネットでのつながりなど、大人が思うほど単純でなく、複雑なのだと思う。
- 学校は、「聞いてあげられる・話せる」環境づくりに取り組んでいる。教員には、子供や保護者の話を聞く体制を常に持つように指導している。
- 保護者や教員が子供たちを助けてあげられる存在であってほしい。
- 18歳で成人とされているが、「自身が職に就き、生活していけるようになる」ことを「自立」と考えると、今の時代、「18歳までに自立する」というのは難しいと思う。30歳くらいかと思う。

2. その他

文化・スポーツ栄誉章顕彰候補者について、秘書広報課より説明を行った。

以上